

～『久之浜第一幼稚園』は、

幼保連携型認定『久之浜こども園』として再スタートしました～

「久之浜第一幼稚園」は、久之浜町に一つの幼稚園として、地域の皆様に支えられて参りましたが、東日本大震災で津波の被害に遭い園舎が流失してしまいました。それから6年の間、多くの皆様のご支援を頂きながら再建を目指して進めて参りましたが、復興はなかなか進まず、この間、全国の皆様からたくさんの励ましの声やご支援を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

おかげさまで、ようやく、3月25日に新園舎が落成し、4月5日に入園式を行うことができました。これまでお支え頂きました皆様に、心より御礼を申し上げます。

「久之浜第一幼稚園」は0歳からお預かりする乳幼児施設「久之浜こども園」として再スタート致しました。子どもの安全を第一に考え、居心地の良い空間で子ども達が安心して伸び伸びと生活できるよう、地域の皆様方のお力をお借りしながら、保護者の皆様と共に教職員一丸となり励んでまいりたいと思いますので宜しくお願い致します。

久之浜こども園園長 青木孝子





東日本大震災による久之浜第一幼稚園の被害状況とその後の現状

いわき市平山崎字熊ノ宮39（平第一幼稚園内）

学校法人志賀学園 久之浜第一幼稚園園長 青木孝子

【地震・津波と避難状況】

久之浜第一幼稚園は、海岸から10m程の風光明媚な所に建っており、園児が夏は浜辺で貝殻拾いをし、冬には海岸沿いをマラソンするなど、豊かな自然環境を活かした保育を行ってまいりました。

3月11日（金）午後2時46分、かつて経験したことのない大地震が幼稚園を襲いました。

この時、幼稚園には、1コース目のバスで降園した園児45名を除く80名の園児が残ってまいりました。普段の避難訓練であれば、揺れが治まってから屋外に退避するところ、あまりの揺れの長さには危険を感じ、園庭中央に出るよう呼びかけ、それからすぐに園内に子どもがいないか手分けして声かけしながら確認をしました。

園庭に退避したものの、地震の揺れは続き、いつ周囲の建物が倒壊するか恐怖にかられ、保育者と迎えに来ていた保護者が、子どもをかばう体勢で揺れが治まるのを待ちました。

大きな地震でしたので、近くの親御さんは心配で直接迎えに来たりして、混乱していました。とっさに思ったことは、「誰に子どもを手渡したか、おさえておかななくてはならない」ということでした。とにかく、親御さんに手渡した子どもの名前やバスに乗せた子どもとその行き先を、職員が二人組になって次々とメモしました。誰をどのようにして手渡したのか、わからなくなったら、園として責任が取れないと思ったからです。町の消防団の人達が、津波が来るのですぐに避難するよう警戒に回って知らせて下さいましたので、直ちに津波の避難対応に入りました。まず考えたのは、ちょうど降園時間でしたので、親御さんが子どもを心配して帰りのバスコースの道々で子どもが戻るまで、そこから動かずに待ち続けるのでは、ということでした。沿岸部にある家庭もありましたので、早く子どもを親御さんに手渡さないと親御さんも津波の危険にさらされると考えました。地震の際中に戻ってきた小型バスに2コース目と3コース目の子ども達全員30名を乗せ、とにかく親御さんが待つ自宅に一刻でも早く送り届けられるよう出し、幼稚園には戻って来ないよう言いました。結果的には、地震後すぐにバスを出したおかげで、津波の被害に遭わず、このバスが通った後に津波で橋が落ちた箇所もあります。続いて戻って来た大型バスに30名の子どもを乗せましたが、このコースは海沿いの国道を走るコースでしたので、咄嗟の判断で山の方面の道路を走行するように指示しました。このバスも、津波が来る前に通り抜けることができました。この大型バスに乗る子のうち、最も海の近くの家の子3人は、主任の車に乗せ、無理せず送れる所まで送るよう送り出しました。

そうしている間に、父母の会の会長さんがワゴン車で駆けつけて下さいましたので、預かり保育の子ども12名に職員が添乗し、また残りの職員は重要書類を持ち出し、高台のお寺に避難しました。お寺に避難した後、子どもは車から出さずに、保育者が素話をするなどして過ごすようにし、なるべく不安にかられないよう配慮したこともあり、園児達には津波で園舎や周囲の家屋が、崩れ落ちる様を見せずに済みました。

職員は、子ども達が不安にならないよう自分がしっかりしないといけないと思い対応していたようです。津波の2波で園舎が崩壊し潮が凄い勢いで引いていくのを見て、ここも危険ではと思いました。お寺の駐車場に避難していた人達が車で山手の方に避難し始めたので、私達の車もその後を追うように避難しました。

行きかう車の窓から声をかけて頂き、四倉海浜自然の家が避難所になっていることを知り向かいました。海浜自然の家に避難してからは、携帯電話が、なかなか繋がらなかったのが大変でした。

それでも、稀に職員同士のメールが繋がり、大型バスが無理せず四倉の高台の団地に避難していることを知ることができました。大型バスは、全員を親御さんに手渡すことができませんでした。地震の被害により道路が陥没していたり、塀が倒れていたりしたからです。

小型バスは、子どもを全員送り届けた後、避難所や人の集まっている所に行き、出会う人達に、「久之浜

第一幼稚園の園児は、四倉海浜自然の家に避難しています。」と伝えてきたそうで、親御さんにも徐々に伝わったようでした。このロコミは、通信手段のない中、大変大きな役割を果たしました。自然の家で職員が全員合流できたのは、すでに夕方でした。

四倉の海浜自然の家の駐車場で合流したあとも、なるべく子ども達に不安を感じさせないようにするため、自然の家の屋内には入らず、幼稚園バスの中で過ごしました。保育者が、手遊びや、歌、素話をする中、子ども達は泣く子もなく、落ち着いて過ごすことができました。最後の子を保護者にお返しできたのは、最終的には10時頃になりました。その間、職員は連絡の取れない保護者とのやりとり、また園バスで保護者に手渡した子の確認を行い、全員無事帰宅させたことを確認しました。最後にお迎えに来た親御さんから、「先生と一緒にいるから大丈夫だと思っていました！」という言葉をいただき感謝の気持ちで一杯になりました。最初の地震から7時間、次々に迫り来る出来事に判断を迫られ、無我夢中で対応した中で、全員無事だったことが何より嬉しいことでした。

翌日は、津波で家が流されたご家庭もあったため、電話での安否確認と避難所めぐりを行い、園児が全員無事であったことを確認しました。

【放射線対応の取り組み】

この度の震災では、津波で本園の園舎が全壊した上、更には久之浜地区の一部が東京電力第一原子力発電所の放射能漏れによる計画避難地区に指定され、久之浜地区で幼稚園を再開することは困難であると判断いたしました。保護者の皆様には、新年度より平第一幼稚園にて合同保育をしていくという方針をお伝えしました。本来は126人でスタートできるところでしたが、津波による平第一幼稚園への移動に加え東京電力第一原子力発電所の放射能性物質の影響(30k圏内周辺)を受け避難による退園、一時転園、入園保留者が67人となり、4月当初は59人のスタートとなりました。しかしながら、保護者の皆様のご理解のもと、15K余りの距離より通園して頂き合同保育を開始しました。

震災から一ヶ月が経過した23年4月10日(日)に平第一幼稚園、久之浜第一幼稚園合同の入園式を行いました。保育スタート同時に、放射線対応に迫られました。

子どもの健康、安全を最優先に考え、放射線対応に散り組んで参りました。

親が心配していると子ども達まで不安になってしまうので、まずは親御さんを安心させることが大事でした。本園が取り組んできた主な放射線対応は下記の通りです。

- ・4月 玄関、窓、靴箱に、ビニールシートを設置
- ・5月 東北福祉大学の渡部純夫先生による「心のケア講座」を開催
- ・6月 保護者の皆様のご協力を得、園庭の表土除去作業
- ・7月 独立行政法人放射線医学総合研究所の島田義也先生による「幼児期における放射線の影響について」講演会開催
- ・7月 全保育室にエアコンを設置
- ・7月 プールあそびは「ケアハウス恕宥荘」の屋内プールを利用
- ・9月 給食および飲用水として、逆浸透膜ろ過システム浄水器を設置
- ・10月 業者さんによる園庭の表土除去と園舎の除染作業
- ・高圧洗浄機にて、定期的に、園舎や固定遊具の除染
- ・定期的に放射線量測定値を、ホームページに掲載しお知らせ
- ・子どもの内部被ばくのリスクを少なくするため、給食の食材は県外産の物を使用

震災以後、間借りする平第一幼稚園では、定期的に除染作業、表土除去作業を進めて参りました。

23年10月23日より一日30分週3日を目安に戸外あそびを開始しました。24年度には、戸外遊びを一日1時間に延長するとともに、園庭の砂場の砂を入れ替え、砂場あそびも行っています。25年度は、園庭が放射線量も0.1μシーベルトと落ち着いていることから、日々、環境整備を行いながら安全を確認し、運動会も園庭で行うなど、震災前の生活に戻し戸外活動を行なっております。

【防災対策の見直し】

震災直後は、度々余震があり、保育者にしがみついて泣く子が多く見られました。そんな時は、とにかく「大丈夫だよ！」「先生と一緒にいるからね！」と言って聞かせて心の安定を図りました。現在は、毎月避難訓練の成果が見られるようになり、地震が来たら防災頭巾を被って机の下に入るというのが習慣づき、行動が素早くなり普段の訓練の大切さを感じます。

地震、津波の災害を受け、これまで行ってきた避難訓練について気づいたことを挙げてみました。

＝震災から気づいたこと＝

- ・避難訓練は、いろいろな時間帯を想定して行う
- ・時間帯により、園児および保育者の居場所が異なることを考慮する
- ・時間帯によっては、机を出してないこともある
- ・年齢により、また時間帯により防災ずきんの保管場所を考慮する
- ・出席簿は保育中は保育室の持出用バックで保管し、保育終了後は職員室にて保管し、重要書類と一緒に持ち出せるようにしておく
- ・時間帯によっては、点呼できず、人数を把握するのみ、または名前をメモする
- ・地震の場合携帯電話は繋がらなくなるので、保護者への避難の連絡は、貼り紙や口コミで伝える
- ・災害時に緊急連絡が取れない場合を想定し「緊急時の対応」を、4月に文章にして保護者に渡しておく
- ・園児を保護者に引き渡す際、園児引渡しカードで責任の所在を明確にすることが一番良いが、カードを持ち出せなかった場合、メモで適応する
- ・徒歩に加えて車での避難も考慮する（園にバスがある時とない時の避難対応）
- ・避難の際は水と非常食を持って出る
- ・防災組織表は作成をしたままにとどまらず見直しをする
- ・年間防災計画は現場の保育者が作成し、対応の仕方を自ら確認しておく

＝地震発生時の対応（震度6以上の場合）＝

- ・登園中…自宅待機、登園中の園児は登園後状況により帰宅
- ・保育中…保育室にいた場合…机の下（部屋中央）→園庭
園庭にいた場合…園庭中央
園外にいた場合…活動を中止し園に戻る
- ・降園中…出来る限り送り、危険を感じたら、安全な場所に待機している

※保護者に渡さない限りは、幼稚園にて責任をもって預かるのが基本

【震災を振り返って】

- ・大切なことは、かけがえのない命を守ること
- ・震災は想定外の事が起こり、避難訓練の通りにはいかないことが多いが、平日頃、防災対策、避難訓練をしていることにより、習得したことが活かされる
- ・全ての教職員が日頃から幼稚園の現場で必要な防災に取り組み資質を高め、信頼とチームワークで子どもを守る





〈激励のメッセージ〉



〈震災から1ヶ月桜が咲いて〉



〈皆様からの救援物資〉



〈桜枝岐村の村議会より蕎麦のボランティア〉



〈ボランティアによる親子体操〉



〈ボランティアによる親子体操〉



〈間借りをしている平第一幼稚園の園庭を保護者により表土除去作業〉





〈解体の済んだ久之浜第一幼稚園園舎跡地〉



〈ボランティアによる読み聞かせ会〉



〈7月11日より久之浜第一幼稚園の園舎解体が始まる〉



〈10月2日平第一幼稚園久之浜第一幼稚園の合同運動会が開催される〉



〈間借りしている平第一幼稚園の除染作業と表土除去後の石拾い〉